



株式会社高松コソストラクシヨソグループ

2022 年 3 月期 本決算説明会

2022 年 5 月 25 日

イベント概要

[企業名]	株式会社高松コンストラクショングループ
[企業 ID]	1762
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2022 年 3 月期 本決算説明会
[決算期]	2021 年度 通期
[日程]	2022 年 5 月 25 日
[ページ数]	31
[時間]	15:30 – 16:01 (合計：31 分、登壇：31 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 高松 浩孝（以下、高松）

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

登壇

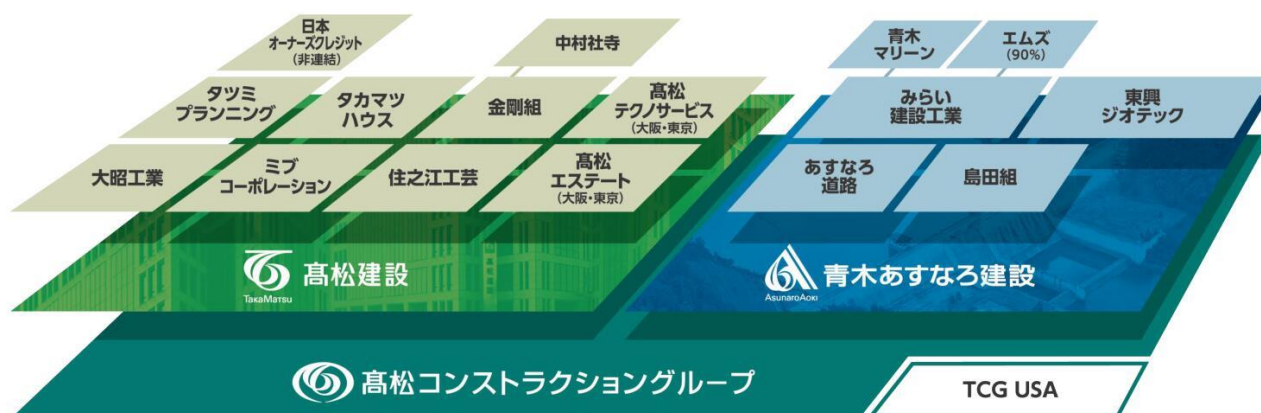
司会：ご視聴いただきありがとうございます。ただいまから、高松コンストラクショングループ 2022 年 3 月期の決算説明動画を配信いたします。

なお、説明では冗長にならないよう、高松コンストラクショングループは TCG、高松建設は TK、高松建設グループは TK グループ、青木あすなろ建設は AA、青木あすなろ建設グループは AA グループと省略しております。

それでは、高松コンストラクショングループ社長の高松浩孝から決算説明をいたします。

グループフォーメーション（2022年3月31日 時点）

- ◆ 純粋持株会社の高松コンストラクショングループ、高松建設他11社、青木あすなろ建設他6社、海外子会社のTCG USA, Inc.の21社で連結ベース構成。
- ◆ 2021年2月26日に大昭工業がTCGグループ入り。
2021年3月31日に新潟みらい建設の全株式を本間道路（株）に譲渡。
新潟みらい建設は同年4月1日より本間道路（株）の100%子会社となった。



*持株比率はエムズ以外全て100%

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

3

高松：高松コンストラクショングループの高松浩孝でございます。本日は、TCG グループの 2022 年 3 月期決算および新・中期経営計画「共創×2025」に関する説明動画をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



まずは決算概要について説明いたします。決算説明資料の3ページをご覧ください。

2022年3月期におけるTCGグループのグループフォーメーションについて説明いたします。

ページ左半分が、TKを親会社とした12社からなるTKグループです。2021年2月に、大阪府の高槻・北摂地域を地盤とする大昭工業およびその連結子会社のTSKハウジングをTKが子会社化いたしました。

ページ右半分が、AAを親会社とした7社からなるAAグループです。新潟みらい建設は、2021年3月に本間道路株式会社に全株式を譲渡したため、TCGグループから外れております。

これら二つの企業グループの他に、TCGの100%子会社であり、アメリカで建築・不動産事業に取り組んでいるTCG USAを含めた21社でTCGグループが構成されております。このグループフォーメーションを、グループガバナンスの強化およびシナジー効果の追求を目的として、2022年4月1日より再編をいたしました。

グループ組織再編（2022年4月1日～）

- ◆ TCGグループは2022年4月1日、グループのガバナンス強化およびシナジー効果の追求を目的としてグループを組織再編。

1) 中核3社から6社体制へ

当社の孫会社だったみらい建設工業、東興ジオテック、タカマツハウスの3社を当社の子会社とし、これまで当社、高松建設、青木あすなろ建設を中核3社と位置づけていたが、本再編により、当社、高松建設、青木あすなろ建設、みらい建設工業、東興ジオテック、タカマツハウスの6社体制へ再編。



サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

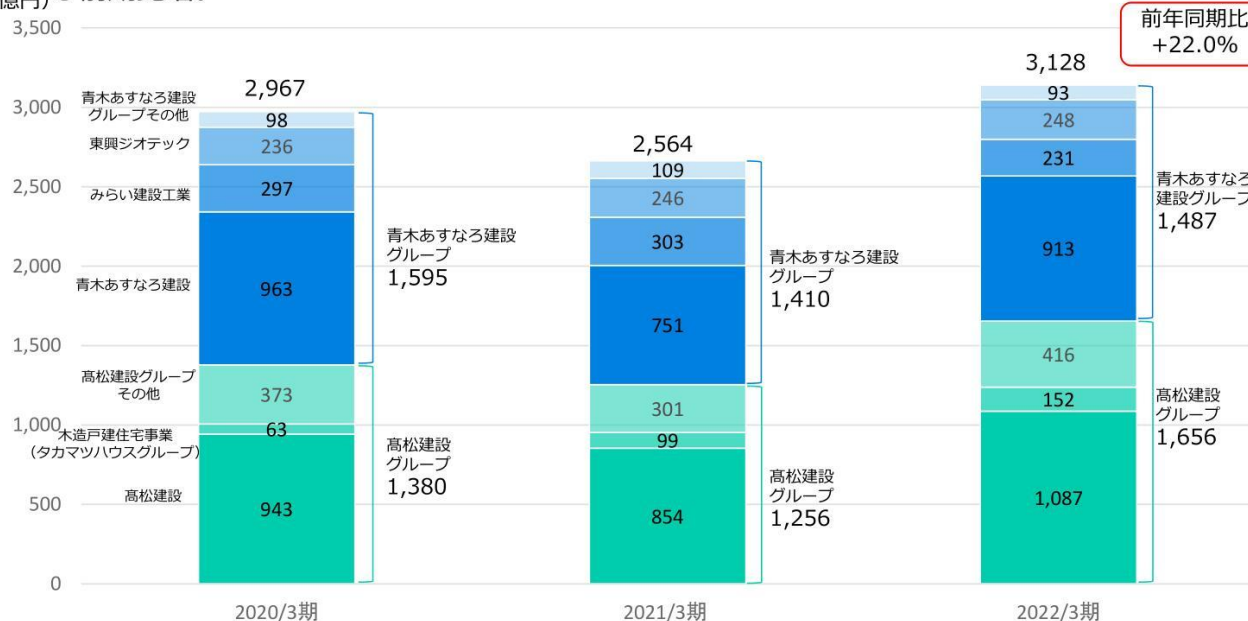
4 ページをご覧ください。これまで当社の孫会社であり AA の子会社であった、港湾・海洋土木工事を得意とするみらい建設工業と、法面工事・地盤改良工事・爆砕工事・セラミックエンジニアリングを主力とする東興ジオテックの 2 社、同じく当社の孫会社であり TK の子会社であった木造戸建住宅事業を行っているタカマツハウスの合計 3 社を当社の子会社といたしました。

2023 年 3 月期より、これら 3 社と、これまで中核事業会社と位置付けていた TK、AA の 2 社、そして純粋持株会社である当社を含め、6 社体制でグループをけん引してまいります。

受注高 累計（連結）

◆ 高松建設グループでは、各社とも21年3月期は新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、22年3月期は影響が縮小。木造戸建住宅事業は大きく成長。大昭工業のグループ入りにより 51億円の増加。

◆ 青木あすなろグループはみらい建設工業などの不振はあるが、青木あすなろ建設等がカバーし前期比増。



※木造戸建住宅事業（タカマツハウスグループ）：タカマツハウス、ミブコーポレーション、タツミプランニング
※個々の数値の合計と合計数値は連結修正のため一致しない場合がある。

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

10

10 ページをご覧ください。2022 年 3 月期の受注高について説明いたします。

受注高は 3,128 億円となり、前年比プラス 22%となりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けていない 2020 年 3 月期の受注と比較しても、それを上回る水準となっております。内訳としては、TK グループで 1,656 億円、AA グループで 1,487 億円です。

TK グループは、前年受注で新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた TK が回復し、前年比プラス 27.2%の 1,087 億円、2021 年 3 月期が実質立上げ初年度だった木造戸建住宅事業も大きく成

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



長し、タカマツハウス、ミブコーポレーション、タツミプランニングの3社合計で、前年比プラス53.8%の152億円となりました。

TKグループその他が前年の301億円から416億円と大きく伸長しておりますが、理由といたしましては、2021年2月にグループ入りした大昭工業の影響が大きく、前年には含まれていなかった受注が2022年3月より含まれているためです。大昭工業の受注は51億円のため、115億円の増加のうち約45%が大昭工業のグループ入りによる影響となります。残りの55%に関しましては、高松テクノサービス、高松エステート、住之江工芸、金剛組、中村社寺と、TKグループその他の全ての会社が前年受注を上回った影響によるものです。

AAグループは、AAが前年比プラス21.7%、みらい建設工業が前年比マイナス23.6%、東興ジオテックは横ばい、AAグループその他は前年比マイナス15.2%となりました。

トピックス

◆ 高松建設

○インディアインターナショナルスクール

「千石・インディアインターナショナルスクール新校舎新築工事」の設計・施工を高松建設で実施。

着工：2022年1月

竣工：2023年3月予定

規模：RC・S造5階建て 7,490㎡



◆ 青木あすなろ建設

○鎌倉市 市営住宅集約化事業（PFI）

青木あすなろ建設を代表とするグループ「優逢」と鎌倉市は2022年3月に契約を締結。5棟総延べ約1.5万㎡の市営住宅（353戸）等を整備するプロジェクト。

完了：2028年3月予定

受注額：7,690百万円（税抜）



AAは、第1四半期で受注を見込んでいた大型案件は3件失注したものの、その後、26ページに記載しております鎌倉市のPFI事業の受注などもあって挽回し、期初に発表した910億円の計画を達成させ、913億円の受注と、ほぼ計画通りの着地となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

みらい建設工業は、港湾工事そのものの出件が少なかったことに加えて、その少ない港湾工事の失注などが影響し前年比マイナスとなりました。

東興ジオテックは、一部下請工事の案件で出件が遅れ、第3四半期時点では前年比マイナスでしたが、第4四半期でカバーし、前年比横ばいとなりました。

AAグループその他に関しては、前年の109億円に対し、2022年3月期は93億円と、マイナス16億円となっておりますが、このうち6億円は、2021年3月をもって新潟みらい建設がグループを外れた影響によるものです。残り10億円に関しては、AAグループその他の青木マリーン、あすなろ道路、エムズ、島田組の全ての会社が前年受注を下回ったことによるものです。

木造戸建住宅事業（タカマツハウスグループ） 受注高

- ◆ 2021年3月期が実質立ち上げ初年度だったタカマツハウスが急成長。東京・神奈川・埼玉を中心に「MIRAKURAS」ブランドで建売住宅を展開。
- ◆ ミブコーポレーションは開発事業から撤退し仲介事業に特化したため受注高が減少。



※個々の数値の合計と合計数値は連結修正のため一致しない場合がある。

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

11

11 ページをご覧ください。木造戸建住宅事業のタカマツハウス、ミブコーポレーション、タツミプランニングの受注についてです。

タカマツハウス単体では、前年受注の8億円から大きく成長し、93億円の受注となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ミブコーポレーションは不動産売買を主な事業としており、これまで販売用不動産を保有して売却するというモデルでしたが、販売用不動産の保有はミブコーポレーションでは行わず、タカマツハウスで行い、ミブコーポレーションは仲介手数料のみを得るモデルに変更したため、受注減となっております。

高松建設 マンション・非マンション別受注高

- ◆大阪ではマンション比率が若干増加したが、主力が非マンションであることに変化はない。
- ◆東京ではマンション比率が新型コロナウイルス感染症前と同水準の7割程度に戻った。
- ◆東京・大阪ともに新型コロナウイルス感染症のパンデミック前を上回る受注高を確保。

マンション・非マンション別 受注高

(億円)

	大阪						東京					
	2020/3	構成比 (%)	2021/3	構成比 (%)	2022/3	構成比 (%)	2020/3	構成比 (%)	2021/3	構成比 (%)	2022/3	構成比 (%)
マンション	85	24.4	113	32.2	181	37.6	404	68.1	240	47.9	435	72.0
非マンション	263	75.6	239	67.8	300	62.4	189	31.9	261	52.1	169	28.0
合計	348	100	352	100	482	100	594	100	502	100	605	100

13 ページをご覧ください。TK のマンション・非マンション別受注高についてです。

前年受注で新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、東京・大阪ともに回復し、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けていない 2020 年 3 月期の受注と比較しても、東京・大阪ともにそれを上回る水準となっております。

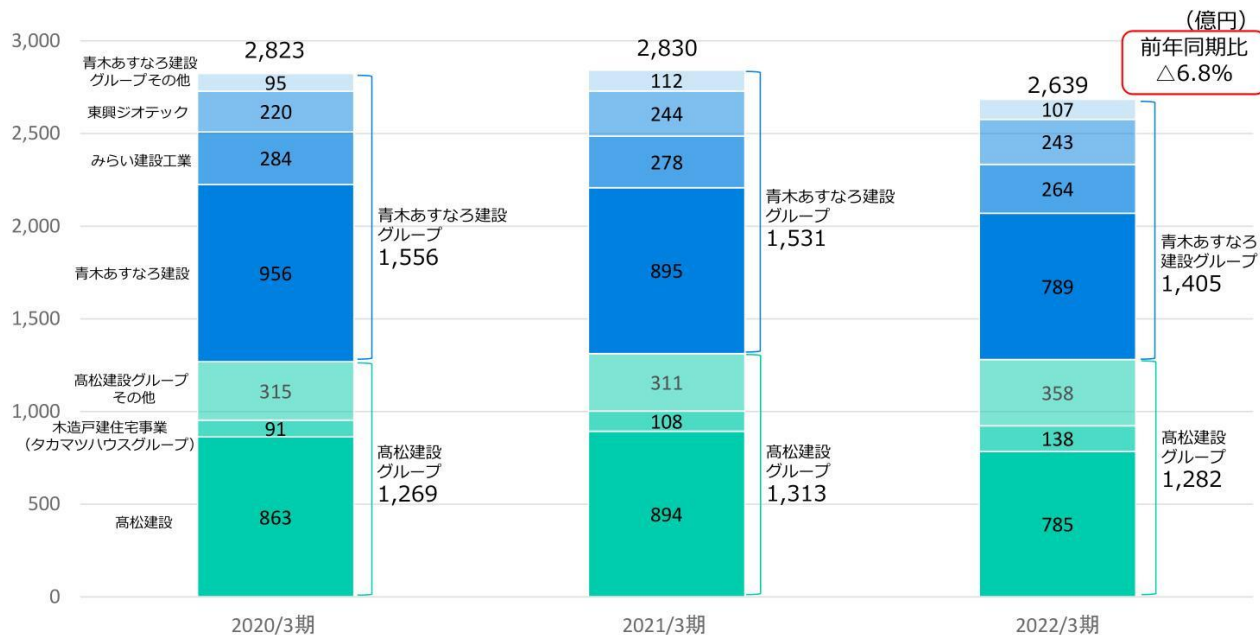
マンション・非マンションの比率に関しては、大阪はマンション比率が低く、非マンション比率が高い、東京はマンション比率が高く、非マンション比率が低い傾向にあり、この傾向は 2022 年 3 月期も継続しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

売上高 累計（連結）

- ◆ 高松建設は、21年3月期の第2四半期途中まで営業活動を自粛していた影響により、着工が22年3月期11月以降になった案件が多く、売上高が減少。
- ◆ 青木あすなろ建設は、22年3月期に受注した土木の大型工事の大半が準備工事のみであったこと、建築の手持ちに大型工事が少なかったことにより売上高が減少。



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

14

14 ページをご覧ください。2022 年 3 月期の売上高について説明いたします。

内訳としては、TK グループで 1,282 億円、AA グループで 1,405 億円です。

TK は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020 年の 4 月から 8 月ごろまで営業活動を自粛していた影響により、前年の受注が下期に偏重したため、主に賃貸マンションの着工が 2022 年 3 月期の 11 月以降になった案件が多く、出来高が伸びず、前年比マイナス 12.2%となりました。

木造戸建住宅事業は大きく成長し、前年比プラス 28.2%となりました。

TK グループその他は、前年の 311 億円から 358 億円と、前年比プラス 15.1%の 47 億円増加となりました。増加分の 47 億円のうち約 50%にあたる 24 億円は、前年に含まれていなかった大昭工業の売上によるものです。

AA グループは、AA が前年比マイナス 11.8%、みらい建設工業が前年比マイナス 5%、東興ジオテックは横ばい、AA グループその他は前年比マイナス 4%となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

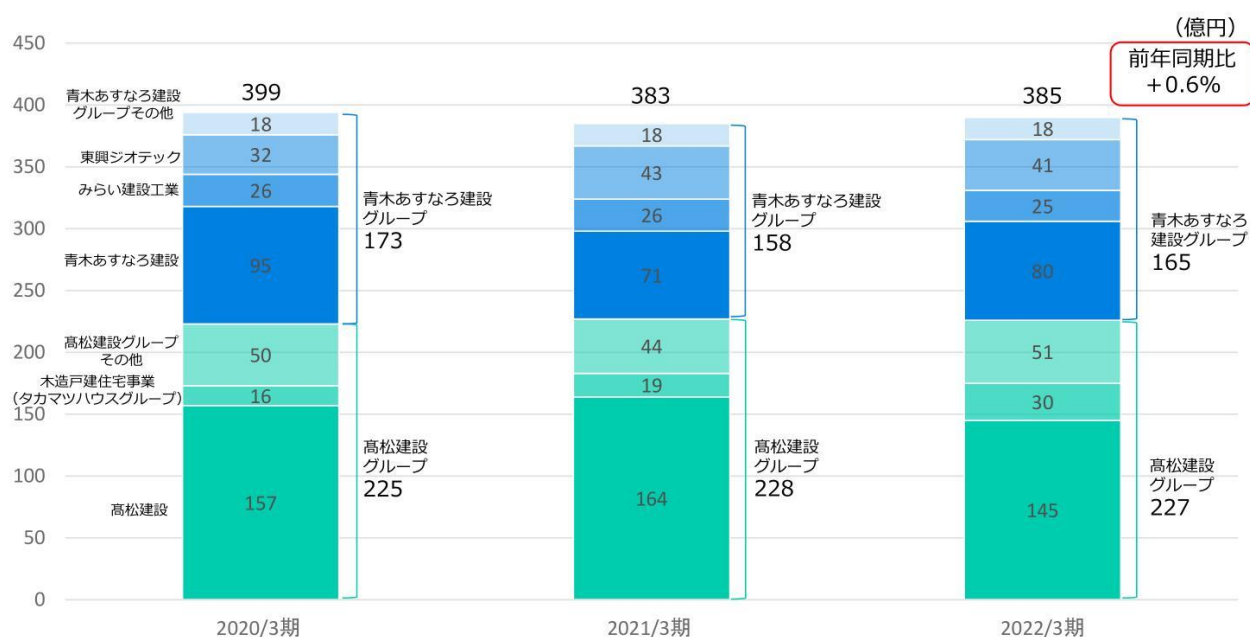


AA は 2022 年 3 月期に受注した土木の大型工事の大半が準備工事の段階であり、出来高が上がらなかったこと、建築の手持ち案件に大型工事が少なかったことにより売上高が減少いたしました。

AA グループその他は前年の 112 億円から 107 億円と、マイナス 5 億円となりましたが、2021 年 3 月をもってグループを外れた新潟みらい建設の前年度売上が 6 億円だった影響が大きく、新潟みらい建設の影響を除けば前年とほぼ横ばいです。

売上総利益 累計（連結）

- ◆ 高松建設は売上高の減少に伴い売上総利益が減少した。
- ◆ 木造戸建住宅事業は売上高の増加に伴い順調に売上総利益が増加。
- ◆ 青木あすなろ建設は21年3月期にあった低採算工事がなくなったことで売上総利益が増加。



※木造戸建住宅事業（タカマツハウスグループ）：タカマツハウス、ミブコーポレーション、タツミプランニング
※個々の数値の合計と合計数値は連結修正のため一致しない場合がある。

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

15

15 ページをご覧ください。売上総利益に関してです。

前年 383 億円に対し、2022 年 3 月期は 385 億円と微増の結果となりました。内訳としては、TK グループは前年 228 億円が、2022 年 3 月期は 227 億円とほぼ横ばい、AA グループは前年 158 億円が 2022 年 3 月期は 165 億円と、前年比プラス 4.5%となりました。

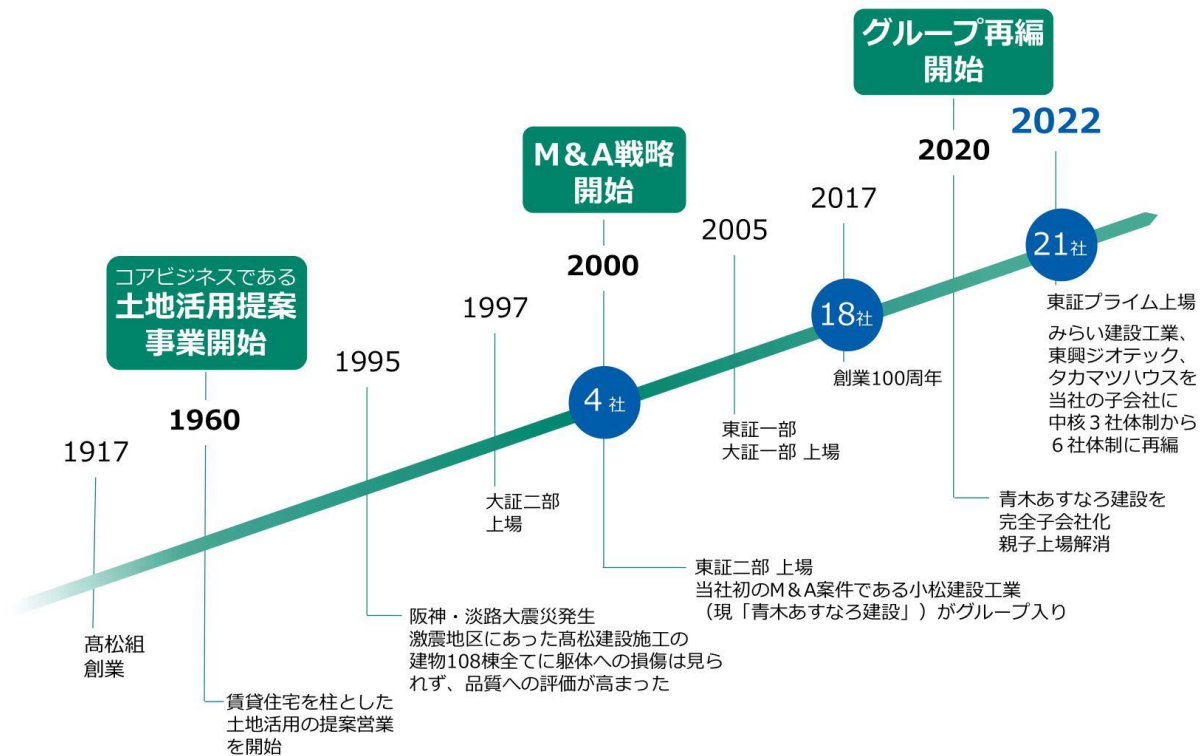
AA グループの前年比増は AA の影響が大きく、前年に AA の建築で 4 件の低採算工事がありましたが、2022 年 3 月期はそのような案件がなく、粗利率が回復したことが大きな要因です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



TCGグループのこれまで



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 3

続きまして、中期経営計画の説明に移ります。

中期経営計画説明資料 3 ページをご覧ください。創業から現在に至るまでの TCG グループの大きな歴史について説明いたします。

当社の母体である TK が、高松組の名で 1917 年に大阪市淀川区にて工務店として事業を開始し、1960 年頃より、現在のコアビジネスである賃貸住宅を柱とした土地活用の提案営業を開始いたしました。

2000 年に入り M&A 戦略を掲げ、今日までに AA、みらい建設工業、東興ジオテックをはじめとした数多くの会社がグループ入りしております。

2020 年には AA を完全子会社化し、親子上場を解消いたしました。これを皮切りにグループ再編を開始し、本年 4 月 1 日には、これまでの TCG、TK、AA の中核 3 社体制から、TCG、TK、AA、みらい建設工業、東興ジオテック、タカマツハウスの 6 社体制へと再編いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



前中期経営計画「Create! 2022」総括

重点施策

- **高成長・高収益企業を創る**
売上高は年6%以上の成長を継続し、営業利益率も6%を目指す
- **グループの新事業領域を創る**
M&Aにより事業補完をはかり、新領域を探索
- **多様性尊重、コンプライアンス重視の企業文化の創出**
- **シナジー効果の創出**
- **経済・社会や環境への価値創造**

実績および反省

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言発令等に伴い、高松建設で2021年3月期の第1四半期から第2四半期半ばまで訪問営業を自粛。その他、テナントの撤退等による空き店舗の増加にともなう内装工事の減少等もあり、目標未達。
- 新事業領域の創出については、木造戸建住宅事業を新たな柱とすることを目指し、M&Aも含めて取り組みを開始。2022年3月期にはタカマツハウスグループ合算で売上高138億円まで成長。

中期経営計画 目標

(単位:億円)

	20/3期	22/3期
受注高	3,100	3,500
売上高	2,700	3,000
営業利益	133	180

*21/3期目標は非開示。

実績

(単位:億円)

	20/3期	21/3期	22/3期
受注高	2,967	2,564	3,128
売上高	2,823	2,830	2,639
営業利益	147	121	112

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 6

6ページをご覧ください。前中期経営計画「Create! 2022」の総括です。「Create! 2022」は、2020年3月期から2022年3月期の3カ年を対象とし、2019年5月に発表いたしました。

「高成長・高収入企業を創る」「グループの新事業領域を創る」「多様性の尊重、コンプライアンス重視の企業文化の創出」「シナジー効果の創出」「経済・社会や環境への価値創造」の五つの「創る」を柱に作成しております。

新型コロナウイルス感染拡大前に作成した計画のため、その影響は加味しておらず、中計初年度は売上・営業利益ともに計画を達成したものの、中計最終年度に関しては売上・営業利益ともに未達となりました。

新事業領域の創出については、TK、AAに次ぐ第3の柱にすべく、2021年3月期より木造戸建住宅事業を本格的に稼働させ、2022年3月期にはタカマツハウスグループ合算で売上高138億円まで成長させることができました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



TCGグループの長期ビジョン

TCG 2030 vision

地域のあらゆる人々の「もの」と「こころ」の幸せに貢献する

相互信頼と絆のネットワークからのご縁を大切に、
TCGの原点である「C&C（Consultant & Construction）」を体現し、
地域のあらゆる人々の「もの」と「こころ」の幸せに繋がる
『循環型・持続型社会インフラ』の創生に貢献するソリューションを提供している
グループビジョンを支える価値観

相互信頼と絆を
大切にする



社員と組織の成長を
一致させる



人々が幸せに暮らせる
未来に貢献する



TCG 2030 vision を目指すための基本方針

事業成長

ソリューション提供型企业への脱皮

グループ各社の無形資産の棚卸から、有機的な結合による新たなソリューションを開発し、軌道に乗せている。

ストックビジネスの実現

バリューチェーンの拡張によって、建設物を媒介とした顧客の生涯利益を最大化するストックビジネスを実現し進化させている。

組織経営

トップクラスホワイト企業への挑戦

トップクラスのホワイト企業を目指す取組が各社で推進され、「働く喜びと成長を実感できる組織」となっている。

グループ経営基盤の確立

グループ各社の人材・資金・技術の最適連携を目指すプラットフォームが機能し、個社とグループの成長を同期化できている。

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 8

続きまして、8 ページをご覧ください。TCG グループの 2030 年までの長期ビジョン「TCG 2030 vision」について説明いたします。

事業成長の基本方針としては「ソリューション提供型企业への脱皮」「ストックビジネスの実現」の二つを、組織経営の基本方針としては「トップクラスホワイト企業への挑戦」「グループ経営基盤の確立」の二つを軸に掲げております。

次ページ以降で詳しく説明してまいります。

サポート

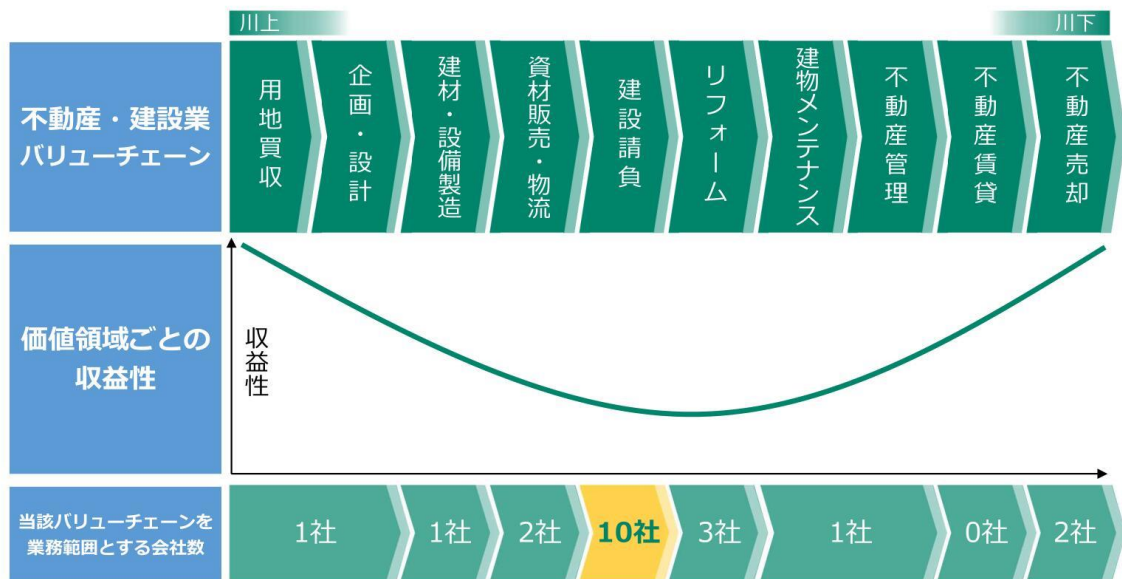
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



事業成長の基本方針の背景①

TCGグループでは、不動産・建設業のバリューチェーンにおいても「スマイルカーブ」が当てはまると想定

TCGグループの売上は相対的に収益性が低いとされる「建設請負」に集中



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 11

11 ページをご覧ください。事業成長の基本方針について説明します。

TCG グループでは、不動産・建設業のバリューチェーンにおいても、スマイルカーブが当てはまると想定しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

事業成長の基本方針の背景②

TCGグループの売上は相対的に収益性が低いとされる「建設請負」に集中

	川上									川下
	用地買収	企画・設計	建材・設備製造	資材販売・物流	建設請負	リフォーム	建物メンテナンス	不動産管理	不動産賃貸	不動産売却
高松建設					●					
高松テクノサービス						●				
高松エステート							●			●
住之江工芸					●					
金剛組/中村社寺					●					
大昭工業					●					
青木あすなろ建設					●					
あすなろ道路				●	●					
島田組					●					
みらい建設工業					●					
青木マリーン					●					
エムズ						●				
東興ジオテック			●	●	●					
タカマツハウスグループ (タカマツハウス、ミブコーポレーション、 タツミプランニング)	●				●					●

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 12

12 ページをご覧ください。2000 年より M&A 戦略を掲げ、多種多様な企業を傘下に持ち、連結で 21 社から成る TCG グループですが、この表にあるように、TCG グループの売上は相対的に収益性が低いとされる建設請負に集中をしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



事業成長の基本方針の背景③

「建設請負」を伸ばしつつ、より高い成長率で川上領域、川下領域に進出し、「建設請負」に偏っている重心を分散。同時に、利益率の向上を狙う。



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 13

13 ページをご覧ください。今後は、強みである建設請負をさらに伸ばしつつも、より高い成長率で川上領域、川下領域に進出をいたします。また、建設請負に偏っている重心を分散させると同時に、利益率の向上を狙う方針です。

「ソリューション提供型への脱皮」については、今あるグループ内の有形無形の資産を組み合わせ、グループ内で提案力や技術力の足りない部分は、ベンチャー企業を含む社外の異業種との協業や資本提携も視野に入れて、新たなビジネスを創出してまいります。

「ストックビジネスの実現」については、TK を中心に取り組む不動産開発案件の受け皿として、私募ファンドや SPC の組成を行い、駅前や地域の再開発などで指導的役割を果たし、不動産管理やリニューアル工事に取り組んでまいります。

また、社会のインフラ維持に向けた取り組みとして、PFI 事業やコンセッション、インフラ運営事業への参画も検討していく考えです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



組織経営の基本方針の背景

事業成長を実現するため

TCGグループがより強化すべきポイントを組織経営の基本方針とした



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 14

14 ページをご覧ください。組織経営の基本方針についてです。

「トップクラスのホワイト企業への挑戦」については、世間的には建設業界そのものがブラックな業界と認識されている中で、良い会社にすれば良い社員が集まり、良い社員が集まればさらに良い会社になるという思いを込め、基本方針を掲げました。

「グループ経営基盤の確立」については、これまで TCG グループは、グループ間でのヒト・モノ・カネの交流が極めて限定的であったため、今後 TCG 主導のもと、人事制度、資金調達、技術面などをプラットフォーム化し、グループ内のヒト・モノ・カネを共有する体制の構築を図る目的で、基本方針として掲げております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

中期経営計画「共創 × 2025」KPI

中計3カ年では受注高・売上高ともに3期連続で過去最高、
営業利益は2024年3月期、2025年3月期と2期連続で過去最高を目指す

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
受注高(億円)	3,600	3,900	4,200
売上高(億円)	3,000	3,400	3,700
営業利益(億円)	120	150	180
当期純利益(億円)	68	90	110
1株当たり純利益(円)	195.30	258.48	315.92

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 16

続きまして、「共創×2025」KPIについて説明いたします。16ページをご覧ください。中計3カ年で、受注高・売上高ともに3期連続で過去最高を目指し、中計最終年度には受注高4,200億円、売上高3,700億円を目標としております。

営業利益は、2024年3月期、2025年3月期と2期連続で過去最高を目指し、中計最終年度には営業利益180億円を目指す計画です。

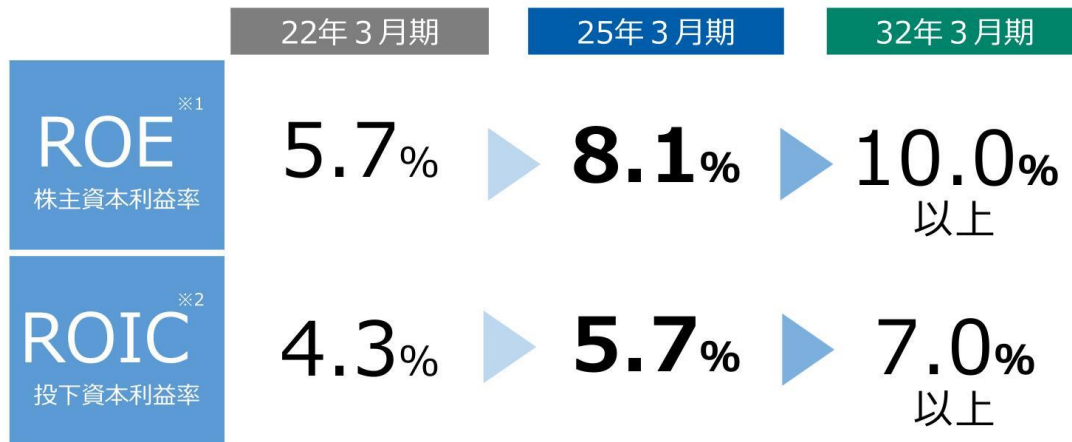
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



中期経営計画「共創 × 2025」KPI ROE/ROIC

中期経営計画最終年度にはROE8.1%、ROIC5.7%を目指し、資本効率性の向上に努める
長期目標は、ROE10.0%以上、ROIC7.0%以上



※1 ROE = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ (前期末株主資本 + 当期末株主資本) / 2
株主資本 = 純資産 - 非支配株主持分

※2 ROIC = (営業利益 - 法人税等) ÷ (借入金 + 社債 + 株主資本)

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 17

17 ページをご覧ください。ROE、ROIC に関しては、中計最終年度に ROE8.1%、ROIC5.7%を目指し、長期目標を ROE10%以上、ROIC7%以上としております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

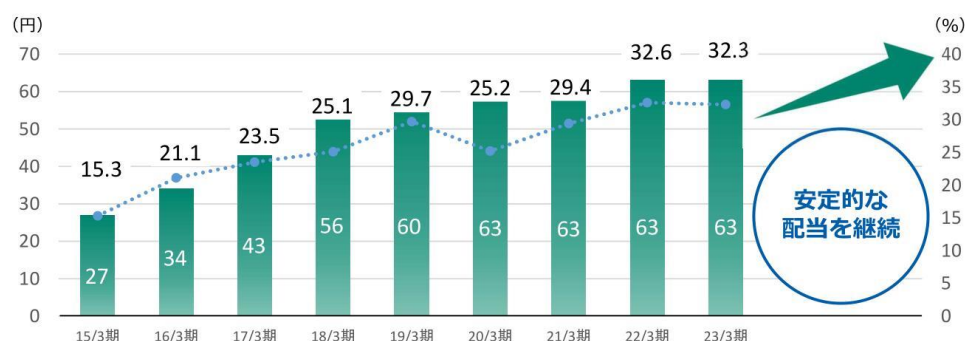


中期経営計画「共創 × 2025」KPI 株主還元

今後も安定的な配当を継続。企業価値向上を目指し投資にもバランスよく資金を投じながら、利益成長に合わせた還元をはかる。

	15/3 実績	16/3 実績	17/3 実績	18/3 実績	19/3 実績	20/3 実績	21/3 実績	22/3 実績	23/3 計画
配当額 (円)	27	34	43	56	60	63	63	63	63
配当性向 (%)	15.3	21.1	23.5	25.1	29.7	25.2	29.4	32.6	32.3

配当額・配当性向 推移



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 21

21 ページをご覧ください。株主還元についてです。

2023 年 3 月期の配当は、2022 年 3 月期と同額の 63 円を見込んでおります。当社は今後も安定的な配当を継続し、企業価値向上を目指して投資にもバランスよく資金を投じながら、利益成長に合わせた還元を図る方針です。

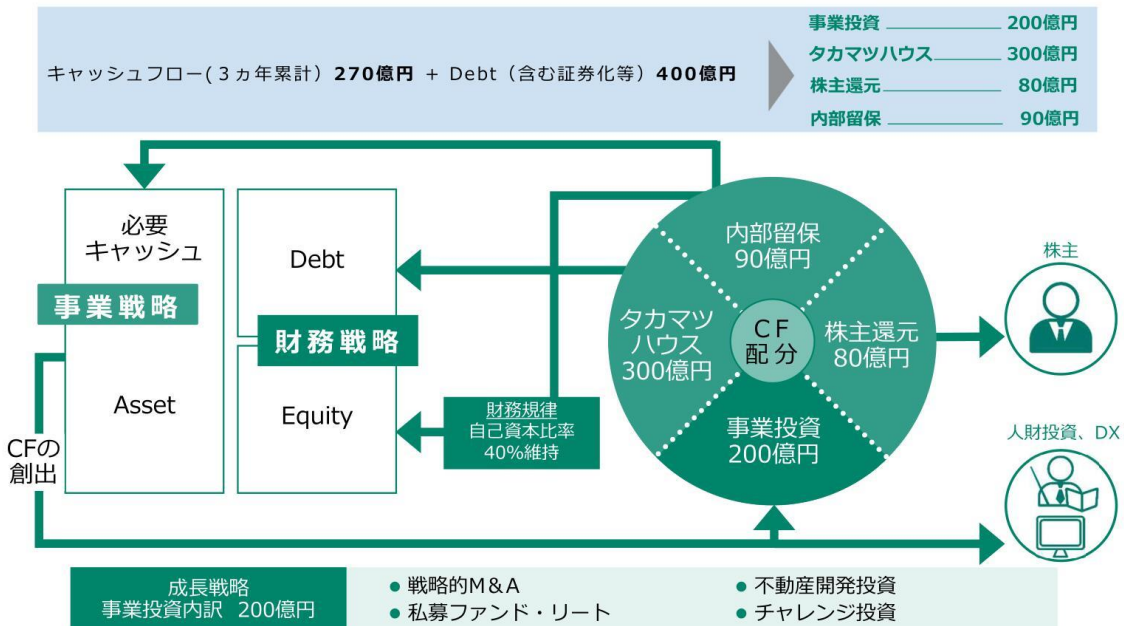
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中計3カ年におけるキャッシュフロー配分ポリシー

- 「ソリューション提供型企業への脱皮」「ストックビジネスの実現」に向けて
3年間で200億円の事業投資・タカマツハウスで300億円の運転資金
- 財務規律は、自己資本比率40%程度を維持すると同時に不動産証券化・有利子負債を積極活用



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 23

23 ページをご覧ください。中計3カ年におけるキャッシュフロー配分ポリシーです。

3カ年累計キャッシュフロー270億円に、Debt400億円をプラスした合計670億円を、タカマツハウスでの土地仕入れ等にかかる資金として300億円、事業投資に200億円、株主還元80億円、内部留保に90億円と配分いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

事業投資計画 ～グループ事業成長のための戦略的投資～

成長戦略事業投資（200億円／3カ年）

- ① 既存事業の強化と周辺領域事業拡大のためのM&A、提携
- ② 川上（不動産開発事業等）推進及び、川下（ストックビジネス）への参入
- ③ 脱炭素・DX・新技術等への研究開発投資（ベンチャー投資、ファンド含む）、米国事業育成 等

目的	実施項目	投資規模
既存事業強化と 事業領域拡大による成長	M&A 提携 (戸建事業強化、施工能力強化等)	投資額 3カ年 200億円
	ソリューション 提供事業拡大 (不動産開発投資・PFI等)	
	ストックビジネス参入	
チャレンジ	R&D 米国事業育成 DX・脱炭素等 先端分野への先行投資	

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 24

24 ページをご覧ください。事業投資計画についてです。

これまで通り M&A 戦略は継続し、TCG グループにおける成長事業である木造戸建住宅事業の強化や、全社的な施工能力の強化などを目的に進めてまいります。

先ほど述べましたソリューション提供事業の拡大では、TCG グループでの保有、SPC の設立といった、さまざまなバリエーションで、物流施設・賃貸住宅・商業ビルなどの不動産開発投資を検討してまいります。

また、現在、AA では住宅建替 PFI に取り組んでいますが、住宅建替以外の PFI への取り組みについても進めていきたいと考えております。

ストックビジネスについては、サブリース事業をはじめ管理業務の範囲の拡大など、さまざまな川下分野の事業の拡大を目指してまいります。米国においても、サブリースをはじめとするストックビジネスと、カリフォルニアで行っている開発事業を両輪で進めてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



そして、DX やカーボンニュートラルをはじめとする環境分野のベンチャー企業や、ユニークな技術を持つ建設テック企業への出資や協業を進めることにより、新たな技術の開発や導入につなげていきたいと考えております。

DXへの取組

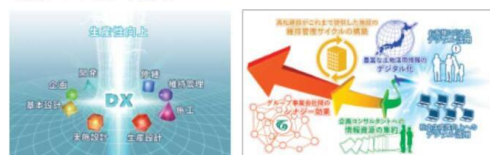
- 気候変動やカーボンニュートラルなどの課題に対応するためのデジタル技術の追求
- 建設技能者の高齢化や労働人口の減少に対応したデジタル技術の活用
- 働き方改革の一環としての長時間労働の解消や施工の合理化・生産性の向上のための情報技術の活用
- 建設テック・ベンチャーへの投資や協業によるユニークな技術の導入

生産性向上に関する取組

- 新TCGビル竣工(2023年3月予定)にあわせたBPRを通じた業務改革の推進
- グループ内プラットフォームの共通化による情報基盤の強化と見える化
- BIM,CIMの適用による施工の合理化
- 3次元測量データ利用の遠隔臨場を展開
- 建設テック・ベンチャーへの投資や協業によるユニークな技術の導入

BIM、CIMに関する取組

- 企画開発・設計から施工、維持管理・修繕まで一貫したデジタル運用技術を基盤とした業務プロセス改革



無人化施工技術に関する取組

- 浅水域で活躍する無人化施工の水陸両用ブルドーザの活用
- 5Gを利用した無人化施工試験を雲仙普賢岳で実施
- 浅水域より深い海域でも施工可能な水中ブルドーザの開発への着手を目指す

建設テック・ベンチャー投資と協業

- 日本および米国の建設テック・ベンチャーファンドへ投資
- ファンド投資等で投資先との関係を構築、個別出資により有望な技術を吸収・新たな技術の導入

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 27

27 ページをご覧ください。DX への取り組みについては、従来は社員が現場に出向いて確認したり、施主が現場に出向いて確認していたことを、遠隔で臨場できるシステムの展開など、生産性向上に関する取り組みや、現在保有する水陸両用ブルドーザで施工可能な水深7メートルよりもさらに深い海域での施工も可能とする、新たな水中ブルドーザの開発を目指してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



研究開発への取組

- 社会の変化に即応した、脱炭素社会に寄与する、社会インフラの維持に貢献する技術や長寿命化をはかる技術開発を推進
- デジタル技術への積極的な取組により施工の効率化に資する技術を開発
- 建設テック等に関するファンドや企業への出資による共同技術開発やオープンイノベーションの実施

技術研究所 ● 新技術開発のための設備等の新設、更新 ● 技術研究所の更新 	デジタル技術 ● 施工のロボット化技術の開発 ● ロボット技術開発（コンソーシアム参加） ● DXへの対応技術の開発 ● AIを用いた危険予知技術の開発 時代の変化への対応 ● 保有技術のリニューアル技術への応用 ● 新リニューアル技術の開発 ● 大水深施工の技術の開発
環境関連分野 ● ZEB、ZEHへの取組 ● CO₂削減への取組、脱炭素を目指す ● 木造耐火を含むPCa化の設計・施工の実現 ● 低炭素型工法の開発 ● 環境ベンチャーへの投資による協業	協業等による技術開発 ● 建設テック・ベンチャー、環境関連ベンチャーのファンドや企業への出資による共同技術開発と成果のグループへの展開 ● オープンイノベーションの実施

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 28

28 ページをご覧ください。技術開発については、従来の技術開発に加えて低炭素型の工法や木造への取り組み、建設施工プロセスにおける二酸化炭素排出量の削減につながる技術など、環境関連分野の技術開発にも取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



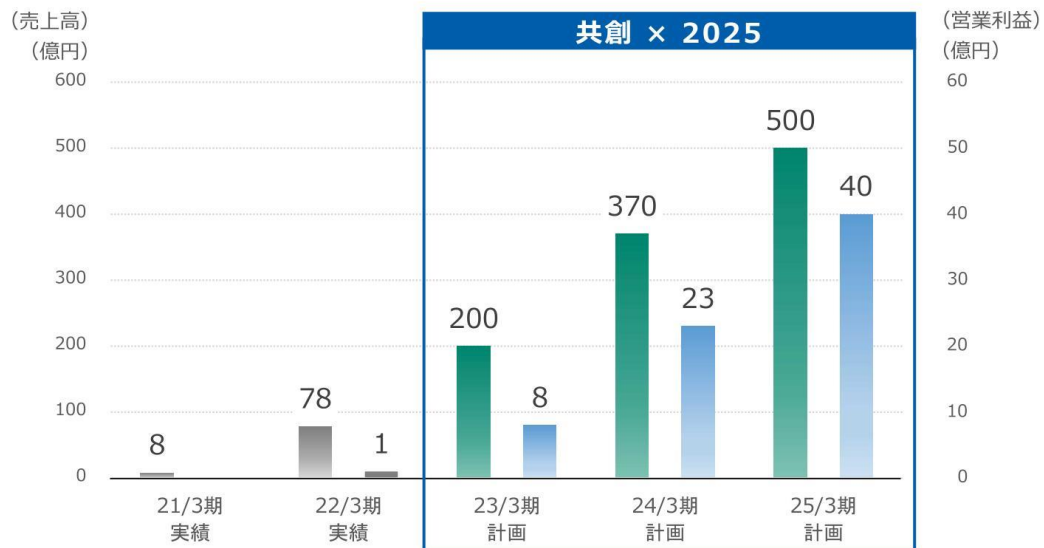
木造戸建住宅事業（タカマツハウス）

タカマツハウス単体の中計最終年度 到達目標は売上高500億円

売上高年平均成長率177%

中期経営計画期間は先行投資期間ではあるものの、利益目標達成を目指す

タカマツハウス 売上高・営業利益



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 31

31 ページをご覧ください。木造戸建住宅事業のタカマツハウス単体の売上高・営業利益の計画です。

2021年3月期が実質立上げ初年度だったタカマツハウスは、2年目である2022年3月期に急速な事業成長を実現し、売上78億円、営業利益1億円の黒字を達成いたしました。現在、2023年3月期200億円、2024年3月期370億円、中計最終年度の2025年3月期には500億円の売上を目指し、ハイペースでの成長を遂げるべく、先行投資として増員を図り、組織体制を強化しております。

現在は東京の世田谷区、杉並区、目黒区等、城南・城西地区を中心に展開しておりますが、今後は徐々にエリアを広げ、中計期間中に東京・神奈川・埼玉・千葉の首都圏における地位獲得を目指してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SLGB（サステナビリティ・リンク・グリーンボンド）

2021年3月に、サステナビリティ・リンク・ボンドとグリーンボンドを組み合わせた国内初となるSLGB（サステナビリティ・リンク・グリーンボンド）を発行。

SDGsが掲げる17のゴールに対応した売上高である「SDGs貢献売上高」を目標値に定め、調達資金を全額、環境性能に優れた新「TCGビル（仮称）」の建設に充当。

発行時には発行額100億円に対し、3倍超の需要が投資家から寄せられた。



東京都港区芝に建築中の新「TCGビル（仮称）」



TCG 高松コンストラクショングループ

SLGBの概要

発行年限	5年
発行額	100億円
利率	0.290%
資金使途	(仮称)TCGビル新築工事の建築資金
発行条件と連動するSPTs※	グループ会社全体のSDGs貢献売上高が将来(2022/3期以降)4カ年度累計で3,911億円以上
プレミアム	SPTsが未達の場合は社債の金額100円につき0.5円のプレミアムを償還時に支払う
取得格付	A-（株式会社日本格付研究所）

※サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲットSPTs）発行体の経営戦略に基づく目標で、達成状況に応じてサステナビリティ・リンク・ボンドの条件が変動する。

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD.

37

37 ページをご覧ください。当社は2021年3月に、サステナビリティ・リンク・ボンドとグリーンボンドを組み合わせた、国内初となるサステナビリティ・リンク・グリーンボンドを発行いたしました。SDGsが掲げる17のゴールに対応した売上高である、当社独自の指標「SDGs貢献売上高」を目標値に定め、調達資金を全額、港区芝に建設中の当社の東京事業拠点である新TCGビルの建設に充当いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



SDGs貢献売上高

SDGsに向けた取り組みが当社グループの長期的な成長のために不可欠であると位置づけ、当社グループのSDGsへの取り組みを定量化するため、SDGsが掲げる17の目標に対応する売上高を「SDGs貢献売上高」と定義し、具体的な目標値を設定。

SLGBでは「SDGs貢献売上高」が2022年3月期以降4カ年度累計で3,911億円以上となることを目標とし、目標未達の場合は償還時に投資家に対しプレミアムが支払われる。

SDGs貢献売上高



格付機関との協議により実績数値が変わる可能性があります。

TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 38

38 ページをご覧ください。SDGs 貢献売上高に関してです。サステナビリティ・リンク・グリーンボンドでは、SDGs 貢献売上高が、2022 年 3 月期以降、4 カ年累計で 3,911 億円以上となることを目標としており、目標未達の場合は、社債金額 100 円につき 0.5 円のプレミアムが償還時に投資家に対し支払われます。

2022 年 3 月期の実績は 797 億円であり、今後 2025 年 3 月期までに毎年 100 億円を超える成長を計画しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



環境への取組、カーボンニュートラルへの取組

Environment 環境

- 再生可能エネルギー関連工事の推進
- ZEB、ZEHへの取組の加速
- 自然共生素材・工法のさらなる開発と適用
- 豊かな海を保全するための工事への取組



風力発電等、再生可能エネルギー関連工事



自然共生素材・工法を用いた法面工事



水陸両用ブルドーザを利用した河川工事・海岸工事等

気候変動・カーボンニュートラル

CO₂削減計画・目標

- 再生可能エネルギー関連工事の推進
- 省エネルギーの徹底
- 再生可能エネルギー使用の推進
- 再生可能エネルギーの電源確保
- 重機のハイブリット・電動化
- ZEB、ZEH化の設計・施工の推進
- 低炭素素材等の開発
- 建設廃棄物の最終埋立処分比率の低減
- ベンチャー・テック企業との共創による新たな技術の開発
- 異業種企業との共創による水素エネルギー事業への参画の検討
- 事業ポートフォリオの変革を含め2030年を目標にScope 2の排出削減を目指す



TCG 高松コンストラクショングループ

©2022 TAKAMATSU CONSTRUCTION GROUP CO., LTD. 39

39 ページをご覧ください。環境・カーボンニュートラルへの取り組みでは、得意とする再生可能エネルギー関連工事や、建築基準法の15%増しのRC造のマンションなどの施工に加えて、気候変動やカーボンニュートラルに関する取り組みについても積極的に推進してまいります。

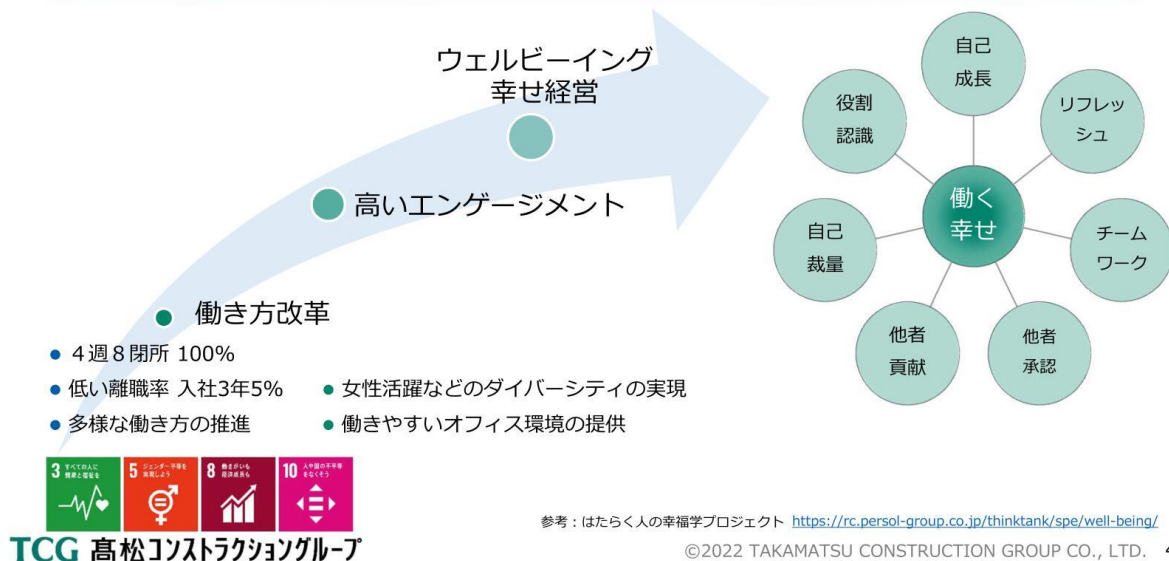
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



トップクラスのホワイト企業への挑戦

「トップクラスのホワイト企業へ挑戦」をすることにより、
「社員の働く喜び成長を実感できる組織」を実現し、
優秀な人材を維持・獲得する



41 ページをご覧ください。「トップクラスのホワイト企業への挑戦」についてです。

4週8閉所については、本中計期間中に100%達成を目指してまいります。入社3年離職率についてはスーパーゼネコンと同水準である5%を目指しており、女性管理職比率の向上、外国人技術者の採用にも力を入れ、ダイバーシティの実現に注力をいたします。

以上で、2022年3月期決算および中期経営計画「共創×2025」の説明を終了いたします。

ご視聴ありがとうございました。

司会：高松コンストラクショングループ2022年3月期の決算説明動画をご視聴いただき、ありがとうございました。以上で、決算説明を終了いたします。

ご質問等ございましたら、高松コンストラクショングループのコーポレートコミュニケーション部までお問い合わせいただければと思います。ありがとうございました。

[了]

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

